

# 経営理念

Nittoグループの使命(Mission)、その実現に向けた考え方を示すVision、さらには身につけるべき価値観、心構え、行動基準で形作られたThe Nitto Way。これらを体系化したものが、Nittoグループの経営理念です。



## Mission

### 新しい発想でお客様の価値創造に貢献します。

Nittoグループは、お客様のお役に立つ製品・システム・アイデアを、徹底して追求する姿勢を常に忘れずにいたいと考えています。直接関わるお客様はもちろんのこと、その先にあるすべてのステークホルダーの方々に、安全と繁栄、快適さ、そして豊かさをお届けすることが、私たちの使命(Mission)です。

## Vision

### Creating Wonders

「Mission：新しい発想でお客様の価値創造に貢献します。」を実現するため、全世界のNittoグループ従業員が持つべき考え方が、「Creating Wonders」です。一人ひとりが驚きと感動を生み出すことに果敢に挑戦する、すなわち、Creating Wondersを日々実践し、さまざまな分野で世界を変える原動力を生み出し続けていく、これが私たちのビジョン(Vision)です。

## The Nitto Way

### ベースとなる考え方

「Mission：新しい発想でお客様の価値創造に貢献します。」および「Vision：Creating Wonders」を実現するため、全世界のNittoグループ従業員が身につけるべき価値観、心構え、行動基準が「The Nitto Way」です。

創業以来、Nittoグループを支えてきた諸先輩の想い・知恵・価値観は、長い歴史の中で積み重ねられ、私たちの中でDNAとなって脈々と受け継がれています。それを明文化したものが「The Nitto Way」です。

私たちの判断基準であり、心の拠り所となっています。

#### 安全をすべてに優先

- あらゆる事故・災害をゼロにします。
- 全員参加で、安全で安心な職場を築きます。

#### お客様へ驚きと感動を提供

- お客様の期待を超える「こんなものが欲しかった」の声をひきだします。
- お客様と共に、社会への新しい価値を創造します。
- お客様の満足を起点とし、すべてのステークホルダーの繁栄につなげます。

#### 変化の先取り

- 社会や市場の変化を感じられる現場に身を置きます。
- 変化を感じたら、素早く行動につなげます。
- 自分たちの強みを磨いて、お客様に一番に相談していただけるポジションを目指します。

#### 新しい価値創造へのチャレンジ

- 失敗を恐れ何もしないより、たとえ一時は失敗したとしてもチャレンジし続けます。
- 変化を面白がり、好奇心を持って一歩前へ踏み出します。

#### スピーディーに動き、やると決めたらやりきる覚悟

- まず、最初に半歩踏み出して、動きながら考えます。
- オープンに情報を共有し、フェアに議論し、やると決めたら一致団結してチーム力でベストを尽くします。
- 日頃から、組織の壁や階層に捉われず、フランクで風通しがいいコミュニケーションに努めます。

#### 絶え間ない自己変革

- 無・減・代の精神で、課題を先取りし、改革を実行、成長につなげます。
- 変化し続けることが成長への原点だと捉えて、自らが変化し続けます。
- 一人ひとりの変化が、全体の成長につながることを信じ、自分と未来に挑み続けます。

#### 誠実な姿勢と多様性への理解と尊重

- 誠実さと謙虚さを行動の原点とし、ステークホルダーとの「尊敬と信頼」の構築に努めます。
- 世界の従業員の多様性を認識し、相手を許容し、尊重します。

## 目次

プロフィール	CFOが語る財務戦略	21
経営理念/目次・編集方針	価値創造プロセス	23
Nittoグループの歩み		3
Nittoグループの今	イノベーションによる価値共創	5
ハイライト	Nittoグループの強み	7
	技術革新の歴史	27
トップメッセージ	CTOが語るR&D戦略	29
トップメッセージ	次代を支えるイノベーション	33
価値共創の戦略	セグメント別情報	34
サステナビリティ重要課題への取り組み	社会に貢献する製品	39

価値共創のための経営品質向上	
人財	41
製品安全・品質	44
環境	47
ガバナンス	
役員・監査役紹介	51
執行役員一覧	55
役員報酬	56
ガバナンス体制	57
リスクマネジメント	60

コンプライアンス	62
社外取締役メッセージ	
社外取締役メッセージ	63
データセクション	
10年間の業績概要	65
財務諸表	67
株主・株式情報	69

## 編集方針

Nittoグループはステークホルダーの皆様に「社会課題の解決と経済価値の創造の両立」に向けた取り組みをお伝えすべく統合報告書を発行しています。

Nittoグループの全体像をご理解いただけるよう、本報告書では成長の軌跡と現在の姿、将来に向けてどのように価値を共創するかについてまとめています。詳細・関連情報につきましては、ウェブサイトにて開示しておりますので併せてご参照ください。本報告書は日本語および英語で発行しており、ウェブサイトからも閲覧いただけます。

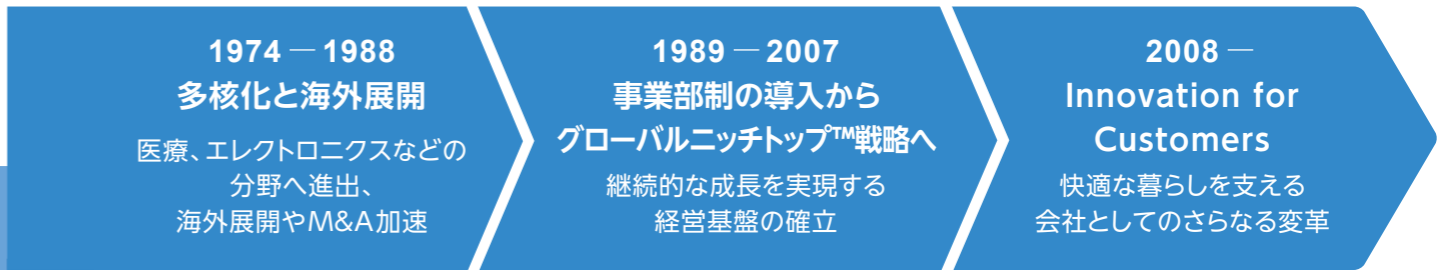
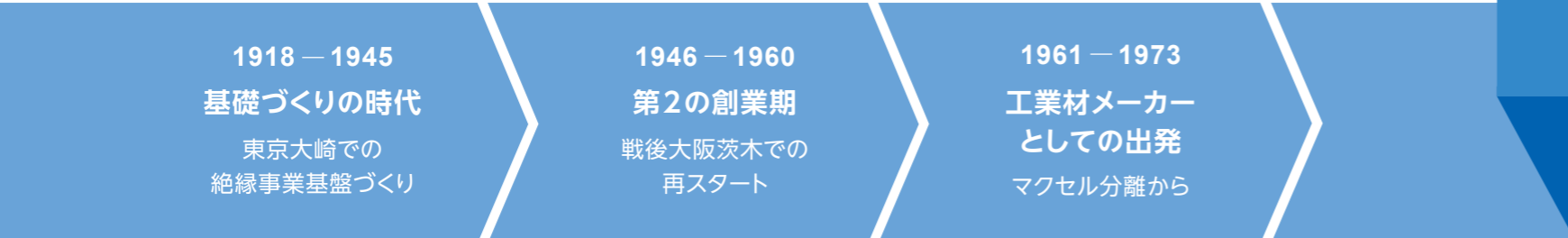
**対象範囲**  
Nittoおよび子会社94社、関連会社6社を含む101社(2021年3月31日時点)

**対象期間**  
2020年度(2020年4月～2021年3月)一部、同期間以外の実績も含まれます。

**参考ガイドライン**  
本報告書は、以下のガイドラインを参考に作成しています。  
・Global Reporting Initiative (GRI)「サステナビリティ・レポートング・スタンダード」  
・国際統合報告評議会(IIRC)「国際統合報告フレームワーク」

# Nittoグループの歩み

Nittoグループは、絶縁材料の製造から始まり、基幹技術である粘着技術や塗工技術をもとに、さまざまな製品を提供することで成長してきました。これから先も、社会課題の解決と経済価値の創造を両立し、人々のより快適な暮らしの実現に挑戦し続けます。



1918年10月25日、「日東電気工業株式会社」を東京大崎に設立。時代の発展を支えるインフラとして、急速に普及していったのが電気でした。そして、電気設備や電気機械などに利用される電気絶縁材料について、国産化が急務である中、日東電気工業は、その一翼を担うために誕生しました。



リノテープ



電気絶縁用ワニス

東京大崎工場を戦災で焼失したものの、戦後大阪の茨木で再スタート。1956年、社は「一品一巻日東の総力、顧客奉仕に貫く日東」を制定。この考え方は今のブランドスローガン「Innovation for Customers」に連綿と引き継がれています。また、1957年には、現在まで続くNitto独自のマーケティング手法である「三新活動」がスタートしました。



ビニルテープ



マクセル乾電池

1961年、消費財部門マクセルを分離し、工業材メーカーとしてさらなる飛躍を目指しました。1962年、国内の粘着テープ主力工場となる豊橋工場操業開始、1967年、関東工場操業開始と、製造拠点を増強。さらに、1968年日東電工アメリカ設立、1969年台湾日東電工設立(初の海外生産)と、海外にも進出しました。



両面接着テープ



フッ素樹脂テープ「ニトフロン™」

1973年のオイルショックによる影響を受け、いかなる景気変動にも耐えうる強固な企業体質を目指して多核化を推進。エレクトロニクス分野に加え、医療分野や膜事業分野に参入し、さまざまな製品を誕生させました。1974年、日東ベルギーを設立。1987年、膜事業の世界的な展開を図るため、米国・ハイドロノーティクス社を買収しました。創立70周年となる1988年、社名を日東電気工業株式会社から、日東電工株式会社に変更しました。



「ココロ™」



経皮吸収型テープ製剤

1989年、事業部制を導入。顧客奉仕の原点に戻り、ダイナミックな市場変化へのスピーディーな対応を図りました。1996年には、成長するマーケットを見極めて、Nittoが優位性を発揮できるニッチな分野に経営資源を投下しトップシェアを狙うグローバルニッチトップ™戦略もスタートしました。また、製品だけではなく、新しいビジネスモデル「ロールトゥーパーネル™」※1を開発。生産性アップ、梱包資材の低減、偏光板歩留りアップ、省人化などお客様に新しい価値を提供しています。

※1 偏光板の原反をお客様の工程内にそのまま持ち込み、そこで切断、検査、ガラスの貼り合わせまでを一貫で行うビジネスモデル。



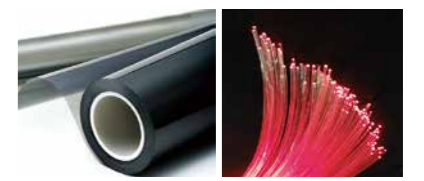
「リバアルファ™」



「ITEMISH™」

2008年に起きたリーマンショックは、われわれにも大きな影を落としました。ビジネス環境変化への素早い対応、「無・減・代」※2と「くるま座」という独自の手法を駆使し、即座に回復し、その後大きく業績を伸ばしました。2013年、「日東電工」を「Nitto」と表記し、現在の企業ロゴに変更、2014年にはブランドスローガン「Innovation for Customers」を制定。2018年、Nittoは創立100周年を迎えました。

※2 「無(む)・減(げん)・代(だい)」と称する「無くす」「減らす」「代える」の3つの視点からなるコスト構造の抜本的な改革を軸とした成長プラン。

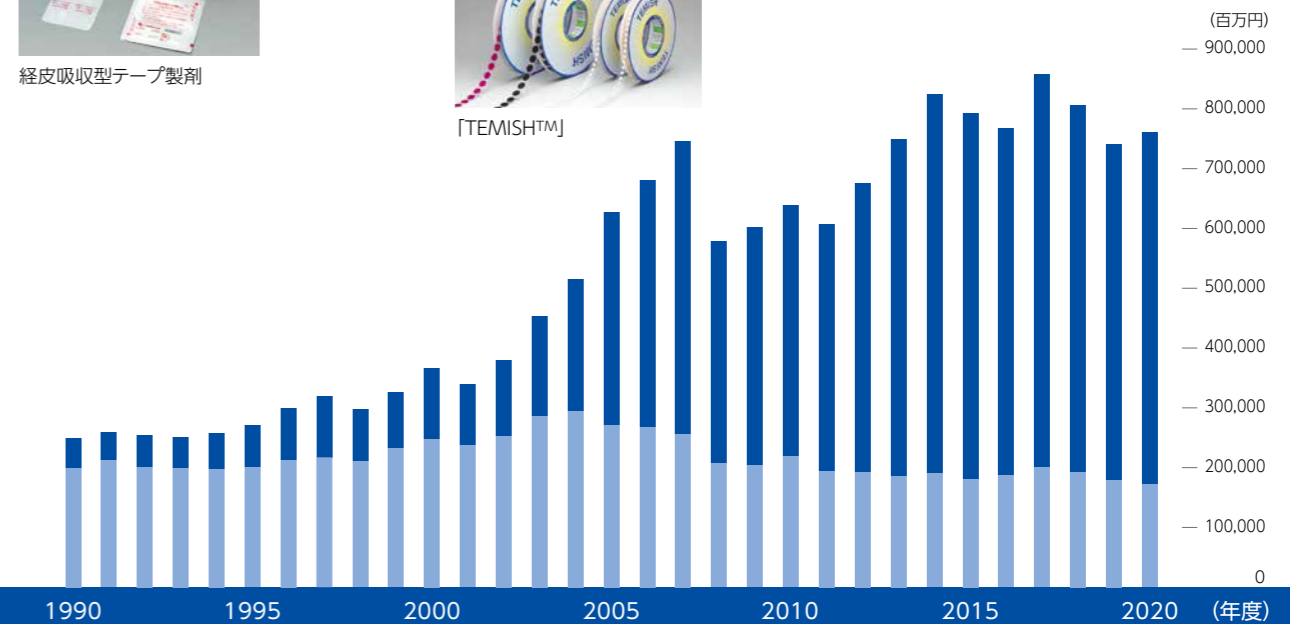
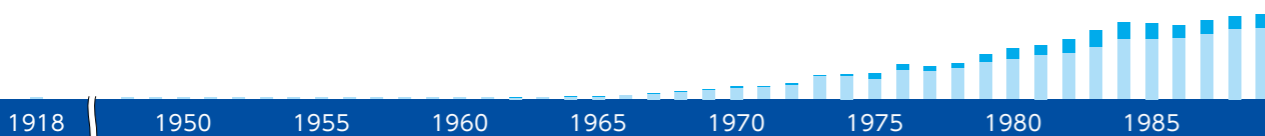


超薄型偏光板

プラスチック光ファイバー

## ■ 売上高※3推移

単体  
■ 海外売上高 ■ 国内売上高  
 連結  
■ 海外売上高 ■ 国内売上高

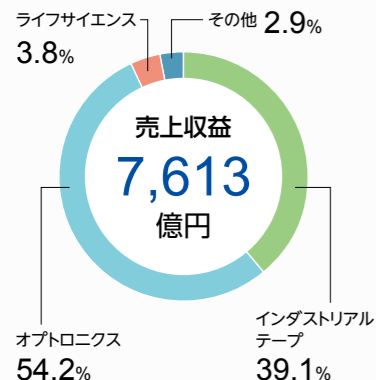


※3 2014年度より国際会計基準(IFRS)を導入したため、それ以降は「売上収益」を示しています。

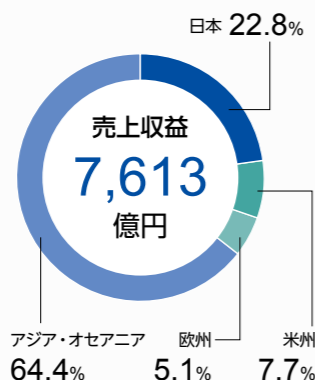
# Nittoグループの今

Nittoグループは世界中のあらゆるところで人々の生活を支えています。まだ誰も挑戦したことのない分野においても、少し先の未来に想いをはせながらチャレンジを続けています。

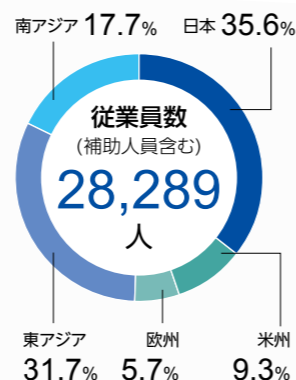
## ■ セグメント別 売上収益



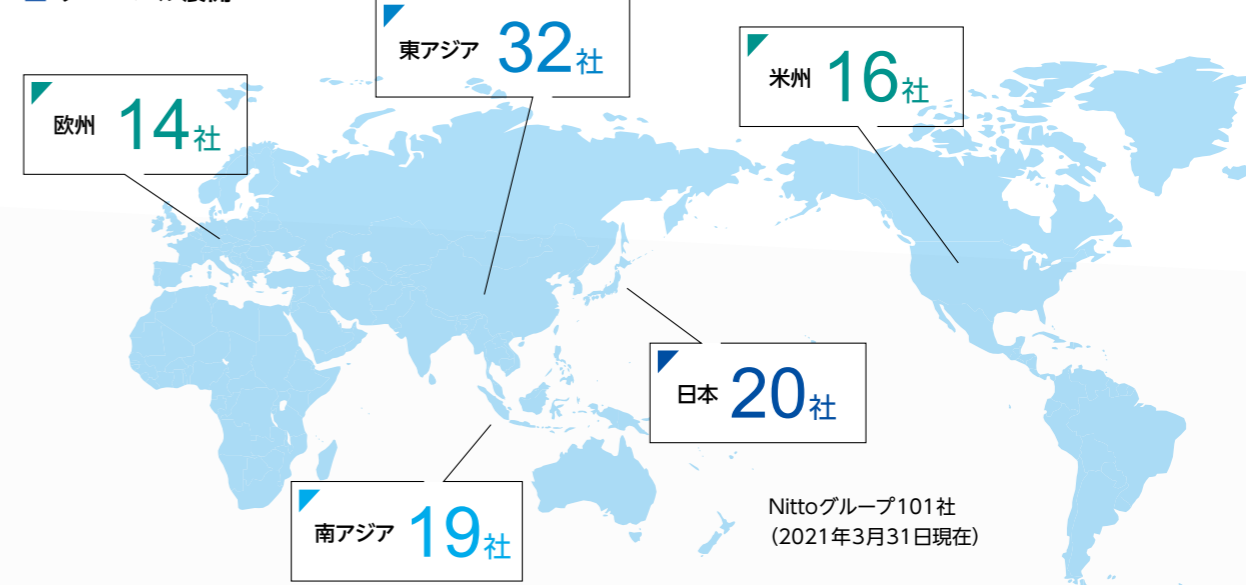
## ■ エリア別 売上収益



## ■ エリア別 従業員比率



## ■ グローバル展開

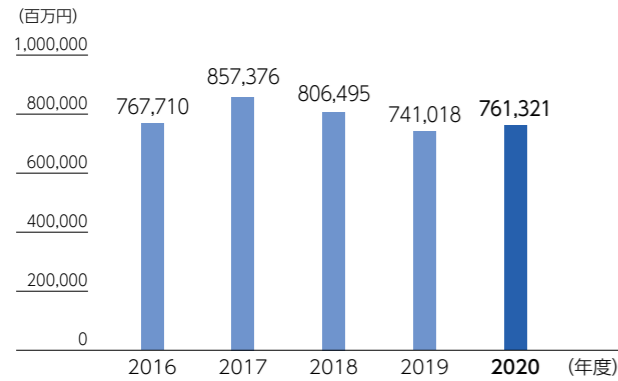


## ■ 事業領域

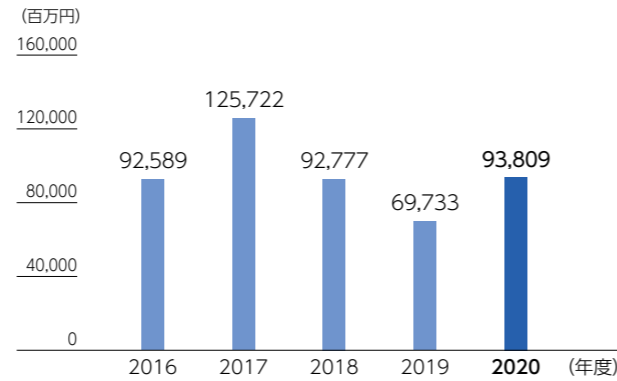


# ハイライト

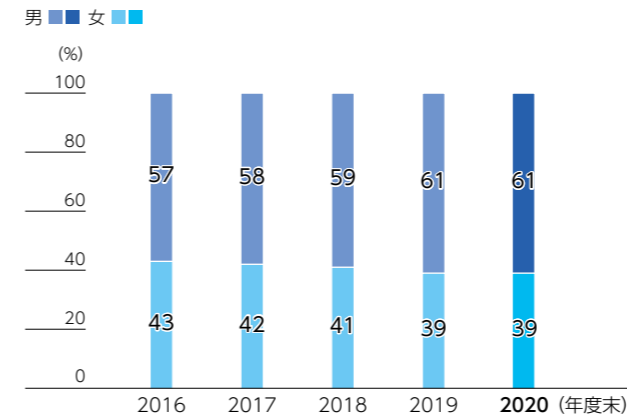
## 売上収益



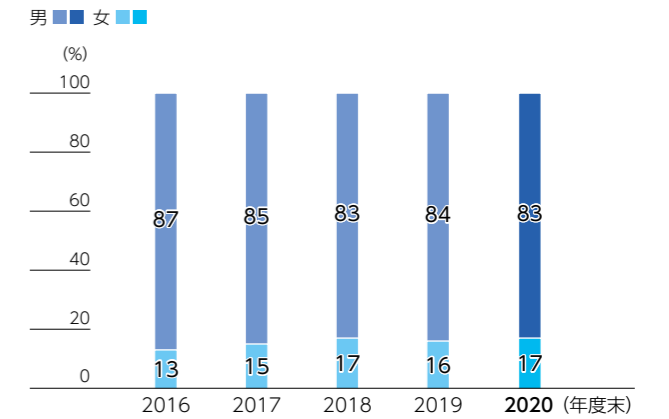
## 営業利益



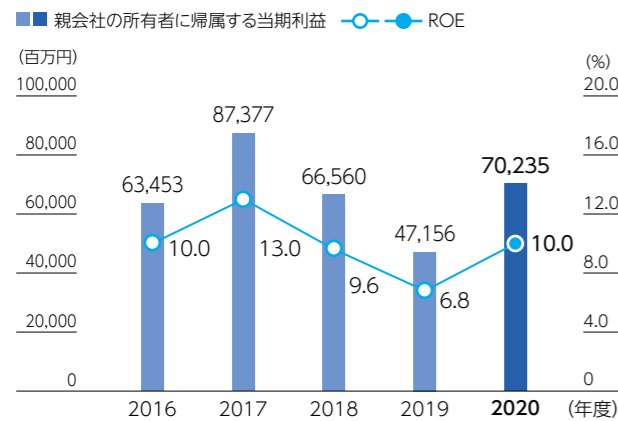
## 従業員男女比率



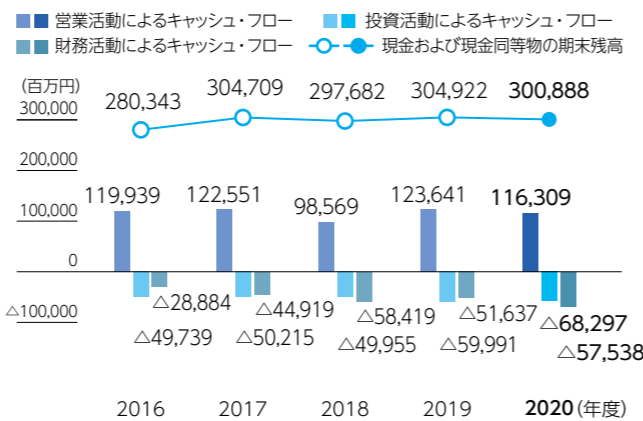
## 管理職男女比率



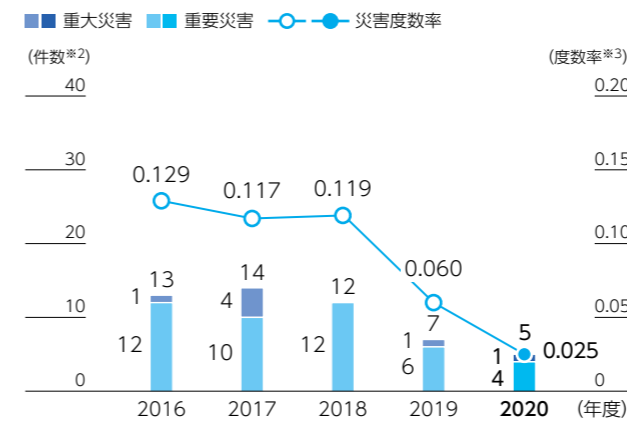
## 親会社の所有者に帰属する当期利益/ROE



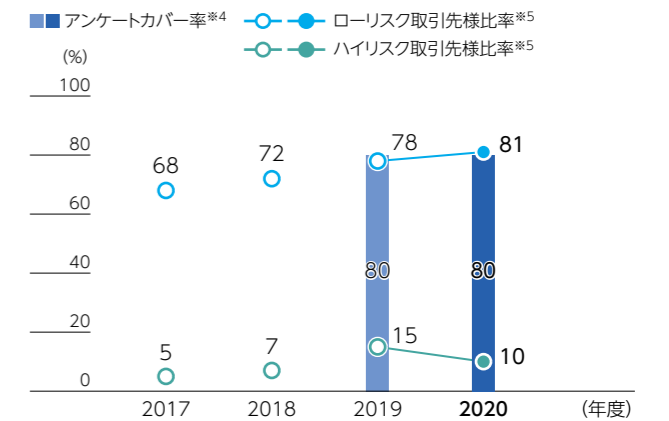
## キャッシュ・フロー



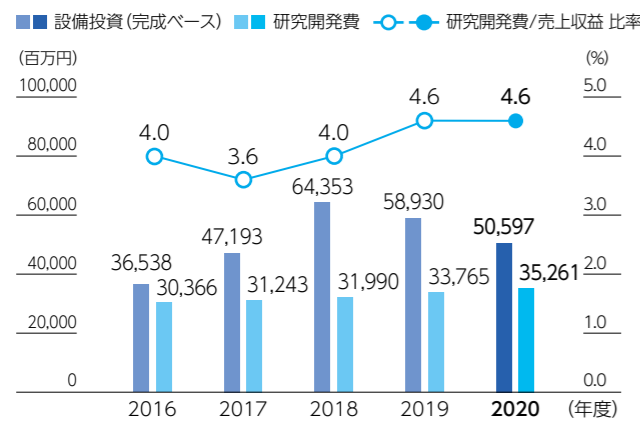
## 重大・重要災害発生件数※1



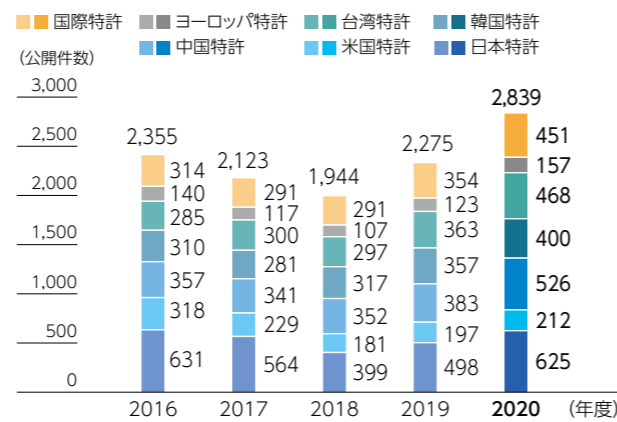
## CSR調達アンケート カバー率



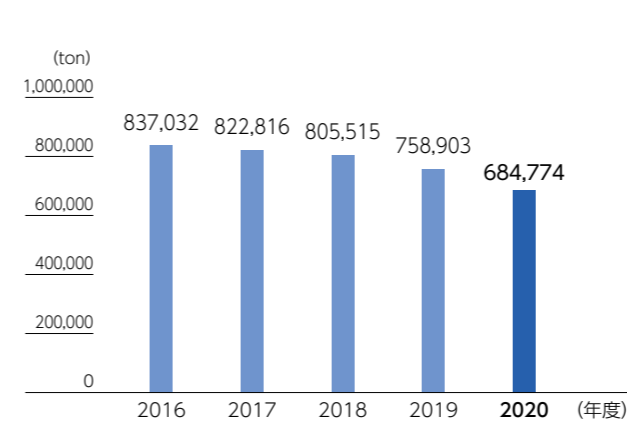
## 設備投資と研究開発費



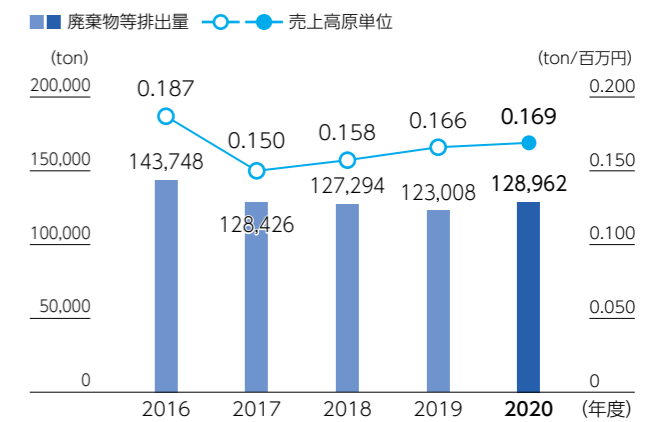
## 特許公開件数(単体)



## CO2排出量 (Scope 1+2)



## 廃棄物等排出量



※1 重大災害：死亡、後遺症(障がい)が残る災害。重要災害：重大災害につながる恐れのある災害。  
 ※2 件数：構内で働くすべての人を対象。 ※3 度数率：Nittoグループ従業員(派遣除く)を対象。100万労働時間あたりの災害発生件数。  
 ※4 アンケートカバー率：総購買金額に対する「CSR調達アンケート」対象取引先からの購買金額比率。2017、2018年度はアンケート対象取引先選定基準が異なるためグラフにはデータを示していません。  
 ※5 ローリスク/ハイリスク取引先比率：アンケート対象取引先様の総数に対するローリスク(グリーン)およびハイリスク(レッド)評価の取引先様の比率。評価はNittoグループの独自基準に従う(P46)。